

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月21日

認定こども園 菅内幼稚園  
園長 阿野 圭太郎

## 1.本園の教育目標

・自分で考え、行動する子ども ・おもしろいものをもった子ども ・あいさつができる子ども ・仲良く遊べる子ども

## 2.本年度重点的に取り組む目標

子どもをまんなか(子ども主体)として、保育者同士・保育者と保護者・保護者同士が日々の保育や行事を通して、子どもたちが主体的に考え活動できるような環境づくりを行う。

## 3.評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子ども主体の保育実現のために保育者が保護者と連携し必要な保育環境や機会づくりを行う。	C	まなび(場)サークル「ようこそ先生」を通じての保育者と保護者の連携の機会が少なかった。ただし、「ようこそ先生」は子ども主体の保育実現という目的のための方法の1つであり、保育者間での当園の教育・保育方針の下での「子ども主体の保育実現」のための保育環境や機会作りをチーム内すべての職員同士で行っていく必要がある。
2	保護者が幼児の発達に気づく機会を保育者がつくったり、保護者同士が子ども主体の保育あるいはその環境づくりのための様々な活動を通して交流したりする機会や場をつくる。	B	保護者が幼児の発達に気づく機会づくりが不十分である。各クラス内はもちろん各学年あるいは各セッションごとに、日頃から子どもたちの心身の発達・成長について意見交換する機会をもつことが重要である。子ども主体の保育やその環境づくりのための活動として、今年度よりサークル活動を行い交流する機会や場をつくらうとした「姿勢」についてはほぼ達成されている。ただ参加保護者の人数が少なく、運営方法や内容について再検討が必要である。
3	「スポーツフェスティバル」「すげうち発表会」を従来の運動会・音楽会・お遊戯会と比較し、子どもがより主体的かつ楽しんで参加し取り組めるような行事にしていく。	A	「スポーツフェスティバル」「すげうち発表会」とともに、昨年度までの運動会・音楽会・お遊戯会と比較し、子どもたちの笑顔が増え、楽しんで参加している様子が多く見られた。その点では、これら2つの行事をそのような方向に変えていこうという取り組みの「姿勢」についてはおおむね達成された。

評価基準【A…十分達成されている(おおむね80%) B…ほぼ達成されている(60~80%) C…取り組まれているが成果が十分でない(40~60%) D…取り組みが不十分である(40&以下)】

## 4.総合的な評価結果

評価	理由
B	3つの評価項目の内、評価項目3はおおむね達成されているが(80%)、1については取り組みおよび成果とも十分ではなく、2についてはほぼ達成されているが課題も残ったため。

評価基準【A…十分達成されている(おおむね80%) B…ほぼ達成されている(60~80%) C…取り組まれているが成果が十分でない(40~60%) D…取り組みが不十分である(40&以下)】

## 5.今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	当園の教育・保育方針の下での子ども主体の保育実現のための環境づくり	日頃の園内での研修や保育者同士の活発なディスカッションを通じて、当園の教育・保育方針の再確認とそれらの下での保護者と連携した、子ども主体の保育実現のための環境づくりに努めていく。
2	「あいさつができる子ども」の育成	子どもたちの「あいさつ」について、「あいさつができる子ども」がなぜ当園の教育目標になっているのかについて保育者一人一人がまず考える。その上で、どのようにすれば、お友だちや先生や地域の方々にあいさつをする大切さに子どもたちが気づくことができるのか又、園と家庭の双方で子どもたちがあいさつをしたくなるような環境づくり・連携の方法について保育者間で意見を出し合い、実行する。
3	子どもをまんなかとした保育環境づくり	制服を始めとした衣服類の正しい着脱・着用について、保育者が園生活の中できちんと伝えたり子どもたちの美的情操が養われる保育を実践するために、園舎内外の清潔さ・保育者の言葉遣いや声の大きさなどにも気を配るようにする。また、園庭を含む園舎内外での様々な保育活動や園生活を通して、子どもたちの「道徳的情操」「情緒的情操」「美的情操」「科学的情操」が養われるような環境づくりをすべての保育者が連携し考え、実践していく。
4	「スポーツフェスティバル」「すげうち発表会」と日頃の保育内容とのつながり	「子どもたちが主体的に楽しんで参加し取り組めるような行事にしていく」というねらいは変えず、日々の保育内容が当園の教育・保育方針の下、0歳から5歳児まで体系的かつ「あそびからまなびへ まなびからあそびへ」という内容に沿ったものになっているかを保育者は常に意識し、保育者同士で確認しあっていくようにする。そして、日々の保育の中で子どもたちが経験したことを発表する場に「スポーツフェスティバル」「すげうち発表会」にしていく。
5	たしかな教育・保育の提供	教育・保育方針の1つである「たしかな教育・保育を提供しよう」に基づき、私たちは認定こども園菅内幼稚園における教育・保育のprofessionalとして、子どもたち一人一人にとって最善の保育を一生懸命考え、提供するよう努める。具体的には美的情操・科学的情操を養うような、0歳から5歳児まで体系的な造形カリキュラムの作成、大型固定遊具には頼らない園庭や園舎内および地域の「あそび」と「まなび」環境を保育者間で考え作っていくために「園庭マップ」「園舎マップ」「お散歩マップ」などを作成し、日々改良を加えていく。
6	保護者への様々な情報発信	当園の教育・保育方針に沿った保育を行うために、園が取り組んでいる、またはこれから取り組もうとしていること、あるいは、各クラスで日々行っている保育内容や子どもたちの生活の様子について情報発信を「目的」や「ねらい」を明確にしつつ、情報発信を積極的に行っていく。

## 6.学校関係者評価委員会の評価

R7.3.3実施 / 出席者:5名 アンケート回答者:7名

### 1. 自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか。

**平均:3.4** (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

・目標に対して適切な評価項目で合ったと思う。ただ、子どもたちが主体的に考える環境づくりが目標にあるので、日常的にそれができていたのか評価項目にあってもよかったのではないかと感じた。

・「スポーツフェスティバル」や「すげうち発表会」は、昨年度(の運動会・音楽会・お遊戯会)に比べ、内容や子どもたちの様子が格段に良くなっているように思えた。サークル活動については、実施曜日や時間が仕事をしている保護者には参加しづらいことも参加人数が少ない要因と考えられる。

・まなび(場)サークル「ようこそ先生」はとても楽しく良い機会(田床山の引率含む)であったため、来年度は実施方法を見直し、回数や保護者の参加人数がもっと増えると良い。

・評価項目「3」については、学年単位の活動が主だったため、子どもたちの発達段階の違いを学年をまたいで見る機会があると良い。

・評価項目「1」および「2」については、実施日や時間など再検討が必須だが、それ以上に他の保護者へ各サークル活動の活動内容が浸透していないように感じた。もう少しわかりやすく周知していただけると助かる。

### 2. 評価結果の内容は適切であったか。

**平均:3.4** (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

・新園舎となり、保護者や子どもたちも(園生活の)環境や流れが変わり、始めはとまどいもあったが、その中でも日々の保育にしっかり力を入れていただいているのを年間を通して感じ、これからの認定こども園としての主となる大事な一年であったと同時に、それらを並行して取り組むことができていたのではないかと思い、適切な評価であると感じた。

・子どもまんなか、子ども主体の取組の工夫や保護者への様々な投げかけもよくされていたと思う。ただ、保護者側としては、他の保護者との関係を築く時間や保護者同士の交流の場が少ないことで、(園側の説明や情報発信では)分かりづらい部分に関する疑問・不安・不満も感じた保護者がいるのではないかと感じた。

・今年度新しく取り組まれたことなどは、子どもをまんなかに先生方がすごく考えしてくださったことだと思う。ただ、周知されていないことや発信の仕方が少し不足しているように感じた。例えば、まなび(場)サークルで言うと、「参加してもよいか?」と感じても参加者が何人くらいいるのかについて何の情報もなく、1人では不安で躊躇された保護者もいたと耳にしたため、(そのあたりの情報発信が改善されると)参加者はもっと増えるのではないかと感じた。

### 3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか。

**平均:3.2** (4:非常に良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない)

・5歳児は翌年度小学校へ進学することもあり、保護者同士のコミュニケーションが増える機会があればよいと思う。ルクミーのアプリによるクラスの様子の配信はもちろん、降園時にその日の我が子(特に1号認定児)の園での様子を先生から聞く機会がもっとあるとうれしい。

・新しいものを取り入れ、子どもたちが全力で遊べる機会・貴重な経験・見たり聞いたり触ったりとたくさんワクワクできることが増えたと感じる。これからも(子どもをまんなかとした保育が)アップデートされていき、菅内幼稚園が子ども・保護者・先生方にとってすばらしい場所であってほしいと思う。

・我が子を含む子どもたちがあいさつができないというのは気になっていた点である。

・課題「1」「2」「4」については、具体的な取り組み方法に示されている通り、実現を期待したい。課題「3」については、課題に対する取り組み方法がやや不十分である。例えば、服育については、仕度ができたら子ども同士向かい合って、上手にできているところやできていないところをゲーム感覚でお互いに直してあげるなどすると子どもの意識が上がるような気がする。課題「5」については、大型固定遊具を設置せず、あそびを創造していく方針であるという園の方針については、情報発信が不足しているように感じたため、その取り組みに期待したい。課題「6」については、情報発信のあり方について再検討すべきではないかと思う。「アプリを通しての交流しかないため非常に無機質に感じる」「日々の活動内容がクラス全体のごとで、我が子の様子の想像がつかない」という内容が保護者アンケートの記述欄にあったが、私自身も同様の感想を持った。保護者アンケート結果で、特に次年度の改善点としてあがる点が、令和4年度から6年度にかけてほぼ同じである。今後取り組む課題についての具体的な取り組み方法を検討する際に、保護者の意見もうまく活用していただきたい。

・保護者への情報発信や連携は現在でも園では様々な工夫はされていると思うし、受け手側である保護者の問題や課題も多いと思うため、試行錯誤の繰り返しが必要ではないかと思う。園からの様々な情報発信にあたり、エントランスホールを有効活用すべきだと思う。子どもたちは園生活を良く楽しんでおり、成長していると感じる。園と保護者との連携不足で情報が保護者に正しく伝わらないのはもったいないと思う。

・どれも課題として必要なものだと感じるが、もう少し具体的に細かく設定した方が取り組みやすいのではないかと感じた。課題「5」の具体的な取り組み方法内にある、「遊具に頼らず、あるものからまなび」という環境づくりはとても素敵だと感じた。